

メッセージ

1991年に初めてスペシャルオリンピックス（以下SO）に出会って以来、知的障がいのある方達との交流や貴重な数々の体験により、私の人生は大変豊かで味わい深いものとなりました。スポーツ活動を通して、彼らの自立や社会参加を支援するSOを全国に広め、世界大会を日本で開催することを念願とし、ひたすら邁進してまいりました。ホッと一息ついた今、周囲を見渡しますと彼らの自立と社会参加は殆ど進んでいません。未だに国民の8割が障がい者に無関心であり、無理解と偏見は両者の間に見えない壁をつくっています。

一方、欧米諸国はノーマライゼーションの時代からインクルージョン時代へと進み、障がい者の社会参加が当たり前と考える国民が過半数を超えています。インクルージョン社会（包みこむ共存共生社会）の素晴らしさは、お互いの違いを認め、「皆が大切な存在」と実感できる世の中で、実は誰にとっても幸せな社会であると確信しております。

日本のインクルージョン社会を目指す活動を進めている中で、一昨年縁あって長崎県のコロニー雲仙を訪問する機会がありました。そこには障がい者が生き生きと自立し暮らしている街の風景がありました。30年かけて創造した理想的なインクルージョン社会があったのです。ここに暮らしている人々のありのままの姿を日本中の皆さまに知らせたいという私の熱い思いは小栗謙一監督に伝わり、再びご一緒に映画の製作を決意しました。

‘住み慣れたふるさとで暮らしたい’、‘愛する人と生活したい’こんな当り前の生活をあらゆる立場の人々が共存共生の思いやりで作りにあげているということを知るとは、多くの人々の生きる勇気や支えとなることと思います。又、撮影スタッフの一員となるビリーブクルーの成長や活躍ぶりも非常に楽しみです。

助け合いの地域社会の復活にこの映画が少しでも寄与できますことを願いつつ、皆さまのご理解とご支援を心よりお願い申し上げます。

製作総指揮 細川佳代子

